国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1

817
169
1

ガラス使用

第八棚
一ノ二百四十二

御觸書總目錄

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』 請求記号 817-1

ガラス使用

大保集成 惣目錄

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』 請求記号 817-1

ガラス使用

御触書

一 武家諸法度之部 一

一 御條目之部 一

一 殿中席順并殿中ニ〻

一 献上物之部
　　御納書
一 勝軍　宣下之祝儀之部
一 史記之祝儀ホゝ之部
一 禁裏御所方之部
一 献上物之部
　　御納書
一 将軍　宣下之祝儀之部
一 史記之祝儀ホゝ之部

一 御勝任　御納書
一 御兼任之祝儀ホゝ之部
　御官位
　　御納書
一 御勝任
一 御兼任之祝儀ホゝ之部
　御官位

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』 請求記号 817-1
ガラス使用

一 御觸書 六
一 美濃掛作誕生ニ付祝儀ニ遣ス部
一 美濃掛作誕生ニ付祝儀ニ遣ス部 七
一 御觸書 八
一 美濃掛作誕生ニ付祝儀ニ遣ス部 九
一 御觸書 十
一 御觸書 十一
一 御觸書 十二

一 御觸書 十三
一 御時服被下候 御觸書 十四
一 御時服被下候 御觸書 十五
一 御時服被下候 御觸書 十六
一 御時服被下候 御觸書 十七
一 日光ノ祇東叡山 御觸書 十八
一 日光ノ祇東叡山 宮御靈屋ヘ 御觸書 十九
一 日光ノ祇東叡山 宮御靈屋ヘ 御觸書 二十

一 御觸書 寛保元酉年 二十三

一 宮御靈屋木〻〻 御觸書 寛保元酉年 二十二

一 宮御靈屋木〻〻 御觸書 寛保元酉年 二十一

一 宮御靈屋木〻〻 御觸書 寛保元酉年 二十

一 宮御靈屋木〻〻 御觸書 紅葉山 寛保元酉年 十九

一 宮御靈屋木〻〻 御觸書 紅葉山 寛保元酉年 十八

一 宮御靈屋木〻〻 御觸書 紅葉山 寛保元酉年 十七

一 宮御靈屋木〻〻 御觸書 紅葉山 寛保元酉年 十六

一 安國殿御靈屋木〻〻 御觸書 增上寺 寛保元酉年 十五

一 御觸書 二十七
一 安國殿御靈屋未ニ〳〵卯 二十八
一 御觸書 二十九
一 寛永御普請所遠國 御觸書 二十
一 寛永御靈屋未ニ〳〵卯

一 寛永御造營之節諸職人共江戸表ニ而賃錢増方之儀ニ付申合候ニ付御觸書 二十一
一 元文四 御法度書 二十二
一 御觸書 二十三
一 法事并ニ葬礼之節停止 御觸書 二十四
一 法事并ニ葬礼之節停止 御觸書 二十五

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1
ガラス使用

一 仰法事并物修業相勤候ニ付
仰觸書
二十七
一 仰法事并物修業相勤候ニ付
仰觸書
二十八
一 仰法事并物修業相勤候ニ付
仰觸書
二十九
一 仰法事并物修業相勤候ニ付
仰觸書
卅

一 仰法事并物修業相勤候ニ付
仰觸書
二十七
一 仰法事并物修業相勤候ニ付
仰觸書
二十八
一 仰法事并物修業相勤候ニ付
仰觸書
二十九
一 仰法事并物修業相勤候ニ付
仰觸書
卅

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1
ガラス使用

一 御法書并物修業御觸書 十四

一 御法書并物修業御觸書 十三

一 御法書并物修業御觸書 十二

一 御法書并物修業御觸書 十一

一 御法書并物修業御觸書 十

一 御法書并物修業御觸書 九

一 御法書并物修業御觸書 八

一 御法書并物修業御觸書 七

一 仏法事并物修作
仏躰
卌八
一 仏法事并物修作
仏躰
卌九
一 仏法事并物修作
仏躰
五十
一 仏法事并物修作
仏躰
卌
一 仏法事并物修作
仏躰
卌一
一 仏法事并物修作
仏躰
卌二
一 仏法事并物修作
仏躰
卌三
一 仏法事并物修作
仏躰
卌四

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1
ガラス使用

一 御法事并ニ物修業
御觸書
寺社之部
六十六

一 寺社之部
御觸書
六十七

一 寺社之部
御觸書
六十八

一 寺社之部
御觸書
六十九

一 寺社之部
御觸書
七十

一寺社ゟ之部　　勘解由書

一　勅奏之部　　勘解由書

一諸國巡見并國之政事之部　　勘解由書

一高札ゟ之部　　勘解由書

一関所ゟ之部　　勘解由書

一　公家之頭ゟ不役人ニ至ル之部　　勘解由書

一　公家之頭ゟ不役人ニ至ル之部　　勘解由書

一　勅社并ニ自辨之部　　勘解由書

一　勅使ゟ之部　　勘解由書

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』 請求記号 817-1

ガラス使用

一小倉永庵將ゝ郎
一永壽二乃ゝ郎
一毅生ゝ郎　仰觸書
一仰宮来ゝ郎　仰觸書
一仰宮来ゝ郎　仰觸書

六十六　六十七　六十八

一仰宮来ゝ郎　仰觸書
一仰宮来ゝ郎　仰觸書
一仰宮来ゝ郎　仰觸書

六十九　七十　七十一

一仰廣夢向井永指永乳將ホゝ郎
一葵仰汝舟永ホゝ郎

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1
ガラス使用

一 上覧上聽ニ〻ル 附箱書 七十二

一 附箱書勤方ニ〻ル 七十三

一 附箱書勤方ニ〻ル

一 城門外供廻リ ニ〻ル

一 来勤交代ニ〻ル

一 退書ニ〻ル

一 着服ニ〻ル 附箱書 七十四

一 諸役人御定勤方并諸家ニ〻ル 七十五

一 諸役人御定勤方并諸家ニ〻ル 七十六

一 諸役人御定勤方并諸家ニ〻ル 七十七

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』 請求記号 817-1

ガラス使用

一 御觸書 七十七
一 諸役人御心得方并諸家来心得方之部 七十八
一 諸役人御心得方并諸家来心得之部 七十九
一 疱瘡麻疹水痘之部
一 忌服穿之部
一 養子縁組之部 八十
一 御觸書
一 重業并学問之部
一 藝術之部
一 醫学之部
一 捜索届并盲僧之部
一 陰陽師之部

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』 請求記号 817-1
ガラス使用

一風俗之部　　御觸書

十一

一道中筋之部　　御觸書

十二

一武士奉公之部

十三

一町奉公之部

一水帶之儀并上水道普請之部　　御觸書

十九

一火事并火之元ニ付之部　　御觸書

十八

一火事并火ノ元ニ付之部　　御觸書

十八

一參勤交代并御茶壺道中之部

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』 請求記号 817-1
ガラス使用

一 米穀之部　　作觸書　　八十七

一 巻方ゟ進米金切米等金銀之外津傳金之部　　作觸書　　八十八

一 巻方ゟ進米金切米等金銀之外津傳金之部　　作觸書　　八十九

一 渡物之部　　作觸書　　九十

欠

一 金銀銅錢之部　　作觸書　　九十一

一 金銀銅錢之部　　作觸書　　九十二

一 米穀之部　　作觸書　　九十三

一 藥種之部　　作觸書　　九十四

欠

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』 請求記号 817-1

ガラス使用

一 諸色直段并諸商賣ニ而

御觸書

九十六

一 諸色直段并諸商賣ニ而

御觸書

九十七

一 酒造ニ而

一 稼稼ニ而

御觸書

九十八

一 酒造ニ而

一 稼稼ニ而

御觸書

九十七

一 御料私領村替并

三方ニ而海老外国烟草

一 質請并ニ而

一 榮禮ニ而

一 宗旨ニ而

御觸書

九十八

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』 請求記号 817-1

ガラス使用

一 境川藤次兵衛訴訟并新田本し部
　　附翰書　九十九
一 在所捉并溜之内ニ而鴈二ツ本こ部
一 隠賣女こ部
一 ゟたり者本こ部
　　附翰書　百
一 公法を者こ及ゟ月ニ而　附添こ部

一 公法を者こ及ゟ月ニ而　附翰書　百一
一 公尊者こ部　附翰書　百二
一 書籍并板行本こ部
一 猿楽町人清蔵人こ部

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1
ガラス使用

一日雇稼者ニ郎
一花火ニ郎
一斗馬車ホニ〳〵郎
一鉄炮ニ郎
一女髪并ニ橋塵芥捨場ホニ〳〵郎
一荷ヲ持ニ〳〵郎
一乞食ニ〳〵郎
右觸書

一博奕ホニ〳〵郎
一公事訴訟并諸会銀出入ホニ〳〵郎
一狼藉者ニ〳〵郎
一右捕者ニ〳〵郎
一盗賊ニ〳〵郎
右觸書

一唐物并唐紅ニ渡ル儀ハ後ニ〳〵郎
百文

一異國船漂着船ニ
一廻船并川船ニ
附船數
一奉公人并諸人ニ
一風邪流行并施薬ニ
附人數
附朝鮮人
百七

一朝鮮人来聘ニ
一琉球人来府ニ
附
百八
附
養生ニ

御觸書有御乃名

御觸書の儀ハ寛保年中
有德院様上意をもつて
まて寛保三年より奉り慶長二年
さて百二十九年の内御
の諸觸也其年奥向日記所方
及ひ其月方向記ニと

校合訂正し元文二年
より全部にて六十四巻也
後明院様御代のとし
書ハ延享元年より寛暦十年に至十七年
乃ち御書目録に
載るの外書目に
漏れたるもの拾三巻に
いたり類纂寛暦修
文荼院様御代のとし
こゝハ寛暦十一年より天明七年迄二十七年
の外編にして元文二年より二十六年迄
うち五拾七巻と
なれども
當御代まて其事を與し書集ハ漸
書ハ天保八年より天明八年までのの

明享三年の条より
六百七通ニ而ハ
目録ニ而ハ百八巻と
なり

一 此書の編集ハ
文恭院様御代ニ
撰み載ハ終ル
文政七年迄ニ
而ハ御代
ニ而ハ

文政七年迄ニ
成ル者ハ
弘化三年ニ
而ハ
嘉永三年ニ
而ハ
安政四年ニ
而ハ
万延元年ニ
而ハ
文久三年ニ
而ハ
元治元年ニ
而ハ
慶応三年ニ
而ハ
明治七年

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1
ガラス使用

都後の出勤も天
下の便意1拠ると文の集ても載て
一御宮御霊宝の
於て寺社の部
出仕故1其門寺院勧化の出納をも編列
して便覧ちらひさこそ日光
山経蔵1。御宮御霊宝の部紀葉山

御宮御霊宝の部
の部の部をもちて
山修復其外の事まて紀葉山野沼寺
と一紙1総名於て1義
もても煩しきその類い東叡山の部
の人出しまて編成有
あつうら遠国

御宮御霊宝の部

寺社といへども其門前
類ハ公儀山の外へ
全く寺社の事の
階ハのミ
一 先年ハ 御奉
つきての名類ハ其儘
ともにこひの編集

一 御書判の門前書
大意1 掟その
いくそもその
あるさん彼
川〻水書清水 御書判の門に
そ取次人心得の
の旅或ん諸次人心得の旅
余日光 御社奉
寺社奉行 御書判
中之間〻〻〻
御社奉の旅 御書判
まつも載ん余
大篠1いふ事
の指紙改もの

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1
ガラス使用

倣ひ集成ひも編中於て要とそふを
揚るといへと星霜幸載のうの水書月
まそ志のも得慶事ホ整くそ於のそも
数巻1おまひぬまりて後来詠そ用を
永るそ毎あらん於名として後證そ
倫ふるといふ

天保十二年七月

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1

ガラス使用

817
169
1

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1

ガラス使用